

2019 年度 内部質保証推進における 学生の参加状況について

※点検・評価報告書に記載している学部等もあります

創価大学

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

経済学部評価分科会

【学生の参加有無】

有り

【学生の所属】

経済学部教育ラウンジ (FEEL: Faculty of Economics Education Lounge) スタッフ 5 名
大北、今村、浦上、工藤、杉山

【評価分科会における学生の立場】:

オブザーバー

【評価分科会実施状況】

日時 12月3日

議題 中間報告への学生からの意見

学生からの意見内容

第4章 教育課程・学習過程の中間報告を読んでもらい意見を聞いた

1. 各科目で修得すべき「アセスメント項目」を明示し、そのために各科目でどのような授業を行っているかを明示した点については、学生の同意を得た
2. 上記の授業内容を踏まえ、各科目でB-以上の成績を修めれば、「アセスメント項目」を達成できたと考えることについては、特に、経済数学について以下の意見が出された

経済数学入門では、「数量的・統計的データを正確に理解することができる」がアセスメント項目になっている。B-以上の成績を、アセスメント項目達成の基準としているが、逆に、C+以下は数学力が向上していないといってしまうのか。また、E+以下が少なければ底上げできたといえるのではないか

【学生からの意見の反映状況】

上記の学生からの意見は、広く言えば、単位修得の基準と、アセスメント項目達成の基準のズレを指摘したものと考えられる。たしかに、指摘のとおり、経済数学で、C+以下であっても数学力がある程度向上下とはいえるが、アセスメント項目に示した

「数量的・統計的データを正確に理解することができる」を達成したと十分にいえる水準にまでは達していないと判断される。よって、今後も B-をアセスメント項目達成の基準とすることとしたい。しかし、今回の指摘も踏まえ、アセスメント項目の達成基準については、今後も学生の意見を聞きながら検討をけることとなった。

【その他】

- ・ 学生が参加したことによる効果もしくは課題等

上記の例に示されるように、アセスメント項目の達成をどのように測定するかについて率直な意見を聞くことができ、課題を明確化することができた。今後も学生の意見を積極的に聞きながら、アセスメントを行って行きたい。

また、今回意見を聞いた学生は、比較的成績が良いメンバーであったが、今後は必ずしも成績が振るわない学生からの意見を聞く必要があると考えられる。

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

法学部

【学生の参加有無】

無

学生との協議の場を設定しようとしたが、学生との都合がつかず実施できなかった。

【学生の所属】

協議しようとした学生組織は、学部自治会

【評価分科会における学生の立場】：

【評価分科会実施状況】

【学生からの意見の反映状況】

【その他】

<創価大学法学部 学生の声を学部教育等に反映させるための取り組み>

2020 年度試行予定

岡山理科大学では、12 月中旬に学科ごとに卒業予定者の半数程度を集めて「カリキュラムコンサルティング」を実施している。

集まった学生を 6 グループ程度に分けて、グループワークを通して、「学科のカリキュラム、授業、科目等に関すること」「学生生活全般に関すること」の 2 つのテーマで学生から率直な意見を聞いていく。途中学生同士で出た意見の是非についてディスカッションする場合もある。この場には当該学科の教員は関与せず、本学で言えば学習支援センター所属の他学科教員数名が参加し、コーディネーターを務める。

とくに最初のテーマは、参加学生が学んできた時間割を配付し、それらに対して学生たちが自由に意見を言い、出た意見を内容別に仕分けていく。これらの意見を該当学科に返し、該当学科では学科 FD 委員を中心に、それらの意見を反映できるかどうか、どう反映するかを検討する。検討後は、翌年 3 月上旬に全学で開催される「アセスメントチェック」（全学 FD 研究会）の場に対応案を提示することになっている。ここを通った改善案は再度各学科に戻り、翌年度のカリキュラム、授業運営等に反映される仕組みとなっている。

同大学はこれらの施策を通して、学生の意見を学部教育、大学運営に反映させるシステムを構築している。

昨年12月17日に澤登事務長がこの「カリキュラムコンサルティング」を視察した。今年3月には「アセスメントチェック」を視察する予定で、同大学の一連のシステムを把握することができる。

2020年度の12月頃に、澤登事務長と職員で「創価大学法学部カリキュラムコンサルティング」を実施する予定である。実施方法は今後詰める予定だが、4コースからいくつかのゼミをピックアップし、そのゼミの4年生の半数程度に参加してもらって40名程度の規模で実施する予定。さらに同年度の3月頃に「同アセスメントチェック」を実施する計画である。これは事務サイドで把握した学生からの意見を、法学部長と数名の法学部教員に伝え、そこでそれらの意見を協議し、まとめる場とする。まとめた意見、改善方法等を直後の学部教授会に諮り、翌年度の学部カリキュラム、授業方法等の改善に役立てたいと考えている。

これにより、確実に学生の声を把握できるとともに、その反映までをシステム化できると考える。恒常的に学生の意見を学部教育に取り入れる取り組みとして実現を目指す。

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

経営学部 内部質保証自己点検・評価委員会

【学生の参加有無】

学生自治会執行部より 6 名が参加

【学生の所属】

経営学部自治会

【評価分科会における学生の立場】：

オブザーバー

【評価分科会実施状況】

- ・日時 2019年7月17日（水）17：30～19：10
- ・議題 経営学部のディプロマポリシーと学修成果の測定状況
- ・学生からの意見内容

— 入学時と卒業時での学修成果の伸び率をみて、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの重要性と適切性に理解を得た。

— 1年次には分かりにくく、2年生以降に興味が深まり、学修成果が大きくなるとの意見があった。

— 定期的にこのような情報共有の機会を持つことが望ましい。

【学生からの意見の反映状況】

- 測定状況の情報提供につき、年度内に蒙一度、次の機会を持つことを検討中。
- 初年度セミナーの改善を学生の SA の活用と共に協力しながら努力する。
- 学生との定期協議会（隔月）のほか、学修成果の測定に的を絞った協議を次の委員会で行う。

【その他】

- ・学生が参加したことによる効果もしくは課題等

学部教育の自己点検に学生が参加することは非常に有益であった。現在、教育評価動向が、「何を教えるかより、何ができるようになったか」が問われている中、学習者の立場から意見を聞くことは新しい視点で議論することができた。

また、学生と教員の良い緊張関係と協力関係を推進する意味で、このような機会は、創造的な組織風土の育成に非常に役立つ。

今後、どのような形で定着してゆけるのか、どこがイニシアティブを取るのか、明確にしていくことが必要である。

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】理工学部

【学生の参加有無】参加あり

【学生の所属】

学部自治会、学部企画

【評価分科会における学生の立場】：

委員

【評価分科会実施状況】

・日時 4/5, 6/21, 9/27, 11/22, 2/22 の学部協議会の中で意見交換、12/13 学生主体の授業改善シンポジウム（旧授業アンケートシンポジウム）で、意見交換。

・議題

・学生からの意見内容

1. 女子学生用ラウンジ、飲食品自動販売機などの生活環境、自習室等の自習用の設備などの学習環境の改善やサービス拡張の要望が出された。
2. カリキュラムについてもレポート課題の量について、特定のセメスターで過重になっており、改善を求める意見が出された。
3. 研究室配属の研究室定員について柔軟化を要望する意見がだされた。

【学生からの意見の反映状況】

1. 現状の経緯説明や、関係部署等との連携により、可能なものについては実現を図った。
2. レポート課題の量については、来年度に意見を反映できるよう学科内で検討し調整をはかることとなった。
3. 研究室定員の考え方を経緯と共に説明し、現状を継続することとなった。

【その他】

- ・大学の社会的意義や運営の難しさについて、参加した学生側の理解が進んだと感じられる。
- ・質保証の項目を系統的に検討するには、議題の立て方が不足である。来年度に改善する。

2020年2月28日

内部質保証推進における学生の参加状況について

2020年2月21日

【評価分科会名】看護学部 点検評価分科会

【学生の参加有無】有り（WEB アンケートによる意見聴取）

【学生の所属】看護学部4年生

【評価分科会における学生の立場】

【評価分科会実施状況】

<学生からの意見内容>69名回答

- ・看護学部選択科目に追加してもらいたい科目：英語以外の外国語、クリティカルケア論、救急看護
- ・臨床現場で実感した、実習科目において改善してもらいたい学習内容：がんの終末期の看護、記録、指導の継続性
- ・「看護実践力到達度評価」及び「看護技術到達度評価」の実施において、改善してもらいたいこと：項目数が多い、WEBがよい、評価方法が分かり難い、教員による統一した指導
- ・正課外で行ってもらいたい補習授業：解剖学 生理学、1年生で習った範囲
- ・国家試験対策の開始時期：3年秋学期（29%）その他（27%）3年春学期（25%）
- ・国家試験対策において、追加で支援してもらいたいこと：薬理学講座、4年生での模試の回数の検討、ゼミ教員からのアプローチ、予備校の情報提供と教材の活用

【学生からの意見の反映状況】

- ・今回のアンケート結果については、各項目を主管する委員会に結果を報告し、改善の必要性等について検討していただく。

【その他】

- ・次回以降のアンケートについては、寄せられた学生の意見から、課題の本質を見極めていくため、実施時期を前倒しし、回答した学生に対して、個別のインタビューができるようにしていく。実施時期は、11月中旬を念頭に準備する。
- ・次回以降のアンケートについても、実施対象は、今回と同様に最終学年の全学生とし、毎年度、定期的実施していく。

June, 2019

内部質保証推進における学生の参加状況について

国際教養学部 Faculty of International Liberal Arts

【学生の参加有】 Yes

【学生の所属】

学部自治会, 寮役員: Student representatives were all members of the 学部自治会; two members were also 寮役員

【評価分科会における学生の立場】:

例) 委員: Students were active participants to the discussion.

【評価分科会実施状況】

- 日時: Tuesday, May 28: 6:15pm
- 議題: Campus Life, Study Habits, etc.
- 学生からの意見内容
 - 3rd/4th Year FILA students hold **monthly lunch meeting** with incoming freshman. The content of the meeting for April was as follows:
 - Open Discussion
 - Fifteen 3rd year students conducted the lunch meeting
 - about 30 1st Year students attended
 - Content focused on:
 - Campus Life: Balancing social/university activities with academic work
 - Study Habits
 - Amount of homework is substantial but students are coping
 - Provided encouragement and advice to students who are struggling such as:
 - study in short time periods: 30 minutes
 - Study Daily: don't postpone assignments until the day before class
 - Dormitory Issues
 - Freshman students are enjoying their dormitory life
 - Having FILA students as Residence Assistants is a great benefit for 1st year students

- One female residence assistant is an RA in Shoshun Dormitory with 15 FILA female students; some are struggling but their attitude remains positive
 - Student Clubs
 - FILA students' participation has increased, the result of the delayed departure for study abroad
 - The next FILA lunch meeting is scheduled for the 1st week of June. The agenda is Study Abroad sites
- 学生が参加したことによる効果もしくは課題等
- The feedback from the student committee was invaluable to the administration of the FILA program.
 - We were re-assured that 1st year students, while struggling, are coping well with their adjustments to higher education and the English-medium environment of the FILA program.
 - We are somewhat concerned that the high participation rate in club activities may create some academic difficulties for some students. However, the general consensus is that club activities are a vital part of the educational experience and should be supported and encouraged.
 - The efforts of the FILA Sempai, in combination with the Freshman Seminar and the Advising system seem to provide an effective system to monitor and detect issues related to incoming Freshman students and quickly deal with these concerns.

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

経済学研究科分科会

【学生の参加有無】

有り

【学生の所属】

修士課程学生（IBSP 3期生の代表メンバー 4名）

【評価分科会における学生の立場】：

委員

【評価分科会実施状況】

・日時 2019年7月22日（月）16時45分～ 於：本学中央教育棟8階AE851

- ・議題 1. カリキュラム、講義について
- 2. 公开发表の機会について
- 3. 就職支援について
- 4. 新入生歓迎会について

・学生からの意見内容

1. カリキュラムについて

学生4名より、IBSPのカリキュラムに対し、授業によっては基礎的な内容と、よりレベルの高い授業もあり、今後、レベルの高い授業や違った科目を受講したいとの要望があった。自己点検評価分科委員から、どういった科目を受講したいのか確認があり、Data Analysis や CSR を学びたいとの声があった。科目によっては、大学院担当教員の専門分野もあるため、今後開講可能か、引き続き検討していくこととなった。また、今期開講した、海外招聘教員による集中講義や新科目に対し、とても満足したとの報告があった。

2. 公开发表の機会について

学生4名より、最終 Semester でリサーチペーパーを作成しなければならないが、論文作成の力や自信をつけるために、事前にペーパー作成と公開で発表する機会を設けてほしいとの要望があった。

種々意見交換の後、今後、2年次始めの9月頃、学生主催で公开发表の場を持つことを検討していくこととなり、この件に関して、学生間でも再度意見を交わすこととなった。

3. 就職支援について

学生より、就職支援として、インターンシップの機会を増やしてほしいとの要望があった。また、日本での就職を考えた場合、現在の9月入学では、修了の時期が企業の入社時期

と合わず、就職活動が困難であるため、なぜそもそも9月入学であるのか教えて欲しいとの質問があった。

これに対し、自己点検評価分科委員より、設置時の目的や経緯が説明された。

学生からは、留学生にとって、ビザの問題等もあるため、今後4月入学の導入も検討してほしいとの要望があり、今後、入学時期について検討をしていくこととなった。

4. 授業の英語レベルについて

学生より、授業で教員と英語によるコミュニケーションがうまくとれないことがあるとの意見があった。

今後、教員の英語レベル向上のため、努力していくことが確認された。

5. 新入生歓迎会について

学生より、IBSP 4期生のために、歓迎会を開催したいとの提案があり、今後、齋藤教授と学生が連携を進めていくこととなった。

【学生からの意見の反映状況】

- ・上記の開設要望のあった科目を提供すべく大学院担当教員の充実のため、人事を進めた。
- ・各科目の課題レポートに関して添削しながら、論文作成上の教育、アドバイスを奨励した。
- ・公開発表の機会を9月に設けることになった。
- ・インターシップの機会を増やすとともに、IBSP 修了者の就職先に企業訪問を行った。

【その他】

- ・学生が参加したことによる効果もしくは課題等

学生の直面している問題を認識し、常に教育課程、講義方法等とともに就職を視野に入れたサポートの充実と改善への努力が必要であることを認識した。

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

法学研究科評価分科会

【学生の参加有無】

法学研究科自己点検評価に関し学生の参加を認め、参加を促す。

【学生の所属】

法学研究科の博士前期課程及び博士後期課程在籍の全学生とする。

【評価分科会における学生の立場】：

法学研究科の評価分科会における学生の立場はオブザーバーとする。

【評価分科会実施予定】

- ・ 日時 第1回 2020年7月15日（水）午後5時～午後6時30分（春学期最終授業日）
第2回 2021年1月18日（月）午後5時～午後6時30分（秋学期最終授業日）
- ・ 議題 （法学研究科大学院生懇談会）
 1. 春学期及び秋学期におけるカリキュラム編成・授業等に関する意見・要望等の聴取。

【学生からの意見の反映状況】

学生の意見・要望を法学研究科の自己点検・評価分科会の報告書に反省させる。

【その他】

学生が参加したことによる効果もしくは課題等については実施後検討し報告する。

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

国際平和学研究科評価分科会

【学生の参加有無】

有

【学生の所属】

国際平和学研究科

【評価分科会における学生の立場】：

研究科学生の選抜による学生代表（研究科1年4名、研究科2年3名）

【評価分科会実施状況】

・日時 2019年12月13日（金）16時40分—19時

・議題 SIPS Reflection Meeting

・学生からの意見内容

1. 学部教育段階で必ずしも国際関係論や平和学を専門としていない学生もいるので、基礎的な知識修得のために、同分野の学部レベルの科目の聴講を許可して欲しい。また、このような目的のために適切な科目があれば、その情報を提供して欲しい。
2. 授業内のレポート課題に対し教員からのフィードバックが簡単な場合がある。教員の間で、グッドプラクティスを共有して、改善して欲しい。
3. 英語でインターンシップを行える機会の情報提供をして欲しい。
4. 現状の4級の成績評価では、Aの点数範囲が100－80と広いので、90点以上の高得点を区別するような厳密な成績評価を導入して欲しい。

【学生からの意見の反映状況】

学生からの意見内容を Meeting 参加教員（研究科長、ルックハースト教授）がまとめて、2020年1月15日（水）の研究科委員会にて報告し、研究科専任教員の間で共有した。

その上で、1については学部科目の聴講を希望する学生の指導教員が対応することとした。2については、どの程度のフィードバックを与えているか教員間で共有した。3については、一般的にはキャリアセンターに情報提供を依頼すると共に、具体的に各学生が望むインターンシップの活動は異なるので、学生各自による情報収集も促すこととした。4については、2020年度から9級の成績評価方法を導入する予定であることを学生に伝えた。

【その他】

- ・学生が参加したことによる効果もしくは課題等

研究科の自己点検・評価の過程への学生参加については、研究科専任教員全員が望ましいと考えており、学生代表との懇談は研究科開設年度から行っている。学生代表は懇談にのぞむに当たって、代表自身の意見や情報だけではなく、他の学生への意見聴取を行い、多くの意見をデータとしてまとめ、寄せられた要望・意見を要約して教員代表に伝えている。学生からの様々な意見・要望は、研究科の教育・研究指導體制の点検と改善に大きな効果を挙げており、今後も学生の積極的な自己点検評価への参加を期待する。

内部質保証推進における学生の参加状況について

【評価分科会名】

理系院生協議会

【学生の参加有無】

本協議会は、学生主体で教職員は関係していない。

【学生の所属】

学生が自主的に決定している。

【評価分科会実施状況】

理工学研究科においては、教職員主導の評価分科会は制度上もなく、開催されてもいない。しかしながら、必要に応じて行われる理系院生協議会（学生が主体で教職員の参加はない）からの申し入れについては、議論に応じ、改善を図ってきた。

【学生からの意見の反映状況】

以前に Research Assistant の拡充の要求があり、それに対応した。

【その他】

特になし